

ひきこもりマニュアル 制定に向けて

～ひきこもりシェルターの必要性～

自治体の壁を越え、生活基盤を築く。
これからの支援の在り方とは？

お申込み方法は
裏面を
ご覧ください

日時

2024 3/2 土

13:00開場 13:30開演

会場

富山県民会館611号室

〒930-0006 富山市新総曲輪4-18

定員

100名

参加費

無料

プログラム

- 13:30 開演
- 13:45 行政報告
厚生労働省社会・援護局地域福祉課
ひきこもり支援専門官 松浦 拓郎氏
- 14:20 講演
東京大学社会科学研究所所長 玄田 有史教授
- 15:00 講演終了(10分休憩)
- 15:10 シンポジウム
「ひきこもりマニュアル制定に向けて
～ひきこもりシェルターの必要性～」
〈コーディネーター〉 玄田 有史教授
〈パネリスト〉
KHJ全国ひきこもり家族会連合会 顧問 伊藤 正俊氏
Peaceful House はぐれ雲 川又 直氏
コミュニティハウスひとのま 宮田 隼氏
NPO法人教育研究所 宇奈月自立塾 牟田 光生氏
- 16:30 シンポジウム終了

講師紹介



東京大学社会科学研究所
玄田 有史 教授

1988年東京大学経済学部卒業、
92年同大学院経済学研究科第II種博士課程退学。
学習院大学経済学部教授を経て現職。
専門は労働経済学。
著書に「希望学」(共著)、「希望のつくり方」、
「危機対応の社会科学」(共著)、
「地域の危機・釜石の対応」(共著)ほか。

全国の15～64歳のうち、現在およそ146万人がひきこもり状態にあると言われています。それを受けて来年度には厚生労働省が初のひきこもり支援マニュアルを策定する見通しです。しかし、「地元の良いイメージが無く、新天地で人生を立て直したい」「自分一人では生活ができない」といったひきこもり当事者も一定数いることから、自治体をまたいでの支援や共同生活型の支援も必要なのではないでしょうか。本人や家族の思いに答えるため、支援者としてできることは何か皆様と共に語り、共有していきたいと思えます。



会場アクセス



【鉄道】

JR富山駅(南口)、あいの風とやま鉄道富山駅(南口)、富山地方鉄道富山駅から徒歩10分

【バス】

富山地方鉄道バス主要路線 富山市役所前下車

【車】

北陸自動車道 富山インターチェンジから当館まで約15分

【直通バス】

富山きときと空港から富山市役所前まで約25分

お申込み方法

メール

件名に「『ひきこもりマニュアル制定に向けて』の申込み」とご記入いただき、参加者名とお電話番号を本文に記載の上、「m_muta@kyoken.org」までお送りください。

FAX

0765-62-1120

下記に必要事項をご記入の上、ご送信ください。

参加者名		TEL	
参加者名		TEL	
参加者名		TEL	

- ご連絡いただいた情報はイベントの受付・連絡のみに使用し、第三者に提供することはありません。
- メール・またはFAXをお送りいただいた時点で受付は完了します。そのまま会場にお越しください。

主催・お問い合わせ

NPO法人 教育研究所

黒部市宇奈月温泉5509-16

TEL:0765-62-9681 / FAX:0765-62-1120

担当:牟田 光生

締切
2024年
2/29(木)